

0414

二百五十五

十二年十月第四十六号ヲ以テ廢止

訂改
徴
兵
令

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ丁壯
 ヲ募リ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護
 ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵
 權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封
 建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千
 有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當
 リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ軍ヲ制セ
 サルニカラス今水郡古昔ノ制ニ基

海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵
 法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立シト
 欲ス汝百官有司厚ク朕カ意ヲ體シ
 普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ
 明治五年壬申十一月廿八日

徵兵告諭

我

朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ

日

天子之カ元帥トナリ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募

リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レハ農タリ

エタリ又商賈タリ固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ヒ武

士ト稱シ抗顔坐食シ甚シキニ至テハ人ヲ殺シ

官其罪ヲ問ハサル者ノ如キニ非ス抑

神武天皇珍彦ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ

文
長
八

爾後軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府ニ鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝綱頽弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜テ國ハ封建ノ勢ヲ為シ人ハ兵農ノ別ヲ為ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ言フ可カラス然ルニ大政維新列藩版圖ヲ奉還シ享未ノ歳ニ及ヒ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劔ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシメントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合一ニスル基ナリ

是ニ於テ士ノ後前ノ士ニ殊ス民ハ後前ノ民ニ
 アラス均シク皇國一般ノ民ニイテ國ニ報ス
 ルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ凡ソ天地ノ間
 一事一物トシテ税アラサルハナニ以テ國用ニ
 充ツ然ラハ則チ人タルモノ固ヨリ心カヲ盡シ
 國ニ報セサルヘカラス西人之ヲ稱シテ血税ト
 云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國
 家ニ災害アレバ人々其災害ノ一分ヲ受サルヲ
 得ス是故ニ人々心カヲ盡シ國家ノ災害ヲ防ク
 ハ則チ自己ノ災害ヲ防クノ基タルヲ知ルヘシ

一

改

兵

令

二

苟ニ國アレハ則テ兵備アリ兵備アレハ則テ人
 ヲ其役ニ就カサルヲ得ス是ニ由テ之ヲ觀レハ
 民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意
 ノ法ニ非ス然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌
 シ時ト宜ヲ制セサルヘカラス西洋諸國數百年
 來研究實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メ
 精密ノリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之
 ヲ用フ可カラス故ニ今其長スル所ヲ取リ古昔
 ノ軍制ヲ補ヒ海陸二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二
 十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ

二百九十九

0421

用ニ備フヘシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉シ
徴兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ
知ラシムヘキモノ也

明治五年壬申十一月廿日

太政官

徴兵令

三

0422

徵兵令

緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスルハカラ
 サル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ
 言フヲ俟タム其法タル古今其制ヲ異ニシ各國
 其趣キヲ同ノセスト雖要スルニ一ニ民兵ニ因
 テリル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰
 ク賦兵是ノリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシテ
 兵役ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海
 ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員

徵兵令

四

充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ
 服役數年ヲ帶ヒ普ク武技ニ熟練シ一團精兵ト
 ナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レモ後日ニ至リ
 或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハス是故ニ壯兵ノ法
 ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各
 國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十
 年ヲ以程度トス今
 國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ
 方リ兵役ノ久キ恐ラクハ人民生活ノ業ヲ妨害
 シ日當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フヘカ

二百六十五

0424

徵兵令

ラス是ニ於テ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ抜キ
現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云

徵兵編成并ヒニ概則

徵兵ハ國民ノ年甫メテ二十歳ニ至ル者ヲ徵シ以海陸兩軍ニ充タシムル者ナリ今爰ニ陸軍ヲ大別シテ三種トナス其一常備軍其二後備軍其三國民軍是ナリ又其兵丁ノ身材ニ從ヒ五派ノ兵種ニ區別ス曰ク砲兵曰ク騎兵曰ク歩兵曰ク工兵曰ク輜重兵而各種ノ兵皆各管鎮臺ノ國郡ヨリ召集シ若干年ノ役ヲ帶ハシメ所管鎮臺ニ備ヘ以地方ノ守衛ニ充ツ

其一

常備軍ハ本年徴兵ノ抽籤セシ者ヲ以編成シ三ケ年ノ役ヲ帶ハシムル者ナリ

第一條 在營中定額ノ日給ヲ與フ其他食

料服類共官給タルヘシ

第二條 強壯ニシテ技藝ニ熟シ行狀正シ

キ者ハ拔擢シテ近衛兵ニ充ツ

但近衛兵規則別ニ記ス

第三條 陸軍勤仕ノ望アル者ハ願ニ從フ

ヲ檢査ノ上教導團ニ入レ學業進

歩ノ上拔擢採用スルハ亦上條ニ照準ス士官又ハ下士任ス

0426

九年二月三日改正

第三條 讀書算

例出來得ル者ハ檢

査格例ニ照シ拔擢

シテ教導團ニ入レ卒

年ノ上下士、任ス其學

例秀逸ニシテ殊ニ行

ハ方正ナル者又之ヲ

拔擢シテ士官學校ニ

持入セシム

第^五條

技藝ニ熟シ才氣アル者ハ人撰ヲ
以其隊ノ下士ニ任ス

第^六條

下士ニ任ヤラレタル者ハ更ニ七
ケ年ノ役ヲ帶ハシメ後備兵籍ヲ

除々最其人材ニ役ヲテ後備軍ノ

士官又ハ下士ニ任ス

第^七條

兵卒ハ總ヘテ三ケ年ノ服役ヲ有
スト雖大平閑暇ノ時ハ服役ニケ

年以上ニシテ技藝熟練スル者ハ

詮議ノ上歸休ヲ許ス

律身令

歸休證書并ニ規則

年号

何府縣何郡所住居何族或職業

常備第何番

親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介

徴兵

入營第何番

何某

右入營以來操練ニ勉勵シ其他勤方宜敷候ニ付
令ヨリ何ヶ月ノ間休暇申付候最非常ノ節ハ布
令次第早々歸營可致事

年号月日

何鎮臺

第一則

銃器服類屬具共保存ノ手當ヲナ
シ姓名番号ヲ記シ一ツ書ニシテ
其隊ノ給養戡軍曹ニ引渡シ置ク
ベシ

第二則

歸休中ト雖在營ノ心得ヲ以他出
スルモ其管内ヲ出ツルヲ禁ク

第三則

歸休中萬一病氣ニテ期限通り歸
營相成り難キ者ハ醫師ノ証書及
ヒ府縣ノ証印ヲ取り其筋ヲ經テ
鎮臺へ届出ツヘシ若又父母ノ重

發
キ
ハ

程
子
今

病并ヒニ死没等止ムヲ得サル事
故出来ノ者ハ醫師ノ証書并ヒニ
其事故ニ係ハル親族及ヒ府縣ノ
証印ヲ以願出ツヘシ其節詮議ノ
上日教ヲ定メ之ヲ許マヘシ

其二

後備軍ハ常備軍三ヶ年ノ役ヲ勤メ終リシ者ヲ
以編成シ常ニ家居シ産業ヲ營マシム後之ヲ別
チテ二種トナス曰ク第一後備軍曰ク第二後備
軍是ナリ

第一後備軍ハ二ヶ年ノ後ヲ帶ハシノ戦時ニ當
 リテハ直チニ召集シ常備軍ニ加ヘ其員ヲ充足
 セシム可キヲ以一歳ニ一度屯營ニ召集シ其技
 ヲ復習ヒシタル者ナリ

第一條 屯營中ハ定額ノ日給ヲ與フ其他

食料服類共官給タルヘシ

第二條 技藝ニ熟シ才氣アル者ニ服役中

同軍ノ下士ニ任ス

第三條 服役中他出スルモ管内ノ出ツル

ヲ禁ス若止ムヲ得サル事故アル

教
二
五

九

後備軍ニ

時ハ其鎮臺ニ願出テ免許ヲ請フ
 一最復習期限ニ妨碍ス可ラス
 第二後備軍ハ第一後備軍ニケ年ノ役ヲ勤ク終
 リシ者ヲ以編成シ尚ニケ年ノ役ヲ帶ハシテ第
 一後備軍ニ繼キ召集スヘキ兵タルヲ以平時也
 營召集ヲ要ヒサル者ナリ

但服役中管内ヲ出ツル時ハ出入并ヒニ往
 先其其筋ヲ経テ鎮臺ヘ届出ツヘシ最第一
 後備軍非常屯集ノ節ハ早々管内ヘ歸ルヘ
 シ

總へテ徵兵ノ服役期限ニ滿ツル者ト雖戰時ハ勿論非常ノ事故アル時ハ其期ヲ延ハサ、ルヲ得ス

其三

國民軍ハ常備後備兩軍ノ外ニ全國ノ男兒十七歳ヨリ四十歳迄ノ人員ヲ兵籍ニ載セ置キ、第二後備軍召集ノ後ハ時機ニ從ヒ隊伍ニ編入シ其指麾ヲ待チテ進退セシムル者ナリ

第一章 徵兵官員并ヒニ職掌

第一條 徵兵使

陸軍中佐或ハ少佐ノ内一人之ニ任シ府縣

徵兵令

十

ニ出張シ知事令又ハ参事ト議シ徵兵ノ諸務ヲ總管ス

但時宜ニ由リテハ副使ヲ遣ハシ代理セシム

第二條 徵兵副使

陸軍大中少尉ヲ以之ニ任ス人員ハ巡迴府縣、大小ニ應シ正使ヲ佐ケ議官及ヒ軍醫副以下ノ醫官ト共ニ區邑ヲ巡行シ徵兵規則内ノ事件ヲ決議シ抽籤等ノ事ヲ掌ル

第三條 書記

陸軍下士或ハ軍屬十等以下十五等迄ノ者
ヲ以之ニ任ス人員ハ二人乃至三人トス徵
兵使ノ諸記録ヲ掌ル

第四條 議長

府縣ノ知事令參事ノ内一人之ニ任ス徵兵
ノ事ニ付キ審斷判決ノ事ヲ掌ル

第五條 議官

屬以下十五等迄ノ者ヲ以之ニ任ス人員ハ
徵兵副使ノ數ニ准ス徵兵副使ト共ニ區邑
ヲ巡行シ議長ノ職掌ヲ輔翼ス

改

兵令

土

第六條 議員

區長或ハ戸長ヲ以之ニ任ス人員ハ大抵其
檢査スル所ノ區數ニ倍ス公文ヲ布達シ民
情ヲ上伸スル事ヲ掌ル

第七條 軍醫一人

徵兵使ニ從ヒ兵丁ノ身材骨格兵役ニ適ス
ルヤ否ヤヲ檢査スル事ヲ掌ル

第八條 軍醫副ヨリ試補ニ至ル

徵兵副使ニ從ヒ區邑ヲ巡廻ス職掌軍醫ニ
同人員ハ大抵徵兵副使ノ數ニ倍ス

第九條 備醫

府縣ノ撰ヲ以之ヲ命ス人員ハ其検査スル
所ノ區數ニ准シ軍醫ニ從ヒ其土ニ生スル
所ノ疾病ヲ具狀シ兼テ検査ノ事件ヲ記
録ス

第十條 筆生

府縣ノ撰ヲ以之ヲ命ス其人員適宜ニ任ス
ト雖大抵議員ノ數ニ准シ検査抽籤中ノ件
々ヲ記録スル事ヲ掌ル

第十一條 徴兵使并ニ議長軍醫ハ各府縣ニ

滞在シ徵兵ニ關スル諸務ヲ總裁ス書記之
ニ屬ス副使議官軍醫副以下組ヲ立テ、各
區ニ分行スル者トス

第十二條 徵兵諸官ハ一歳ノ徵兵事務ヲ竣
レハ悉職ヲ解ク者トス

第三章 徵兵使巡行并ニ検査前事務

第一條 徵兵使巡行ハ二月十五日ヨリ始メ第

一章中第一條第二條ニ揭示シタル陸軍武
官并ニ軍醫等一行ト為リ府縣ニ出張シ
地方ノ諸官ト合議シ徵兵署ヲ設ケ常備ノ

定員ヲ充タスルヨリ免役願出テノ者等總
 ヘテ徵兵ニ關スル事務ヲ管理ス其出務ノ
 時間ハ大抵本省ニ准マツト雖速ニ事務ヲ竣
 ハルヲ要スルヲ以時刻ヲ變易スルハ時宜
 ニ由ルヘシ

第二條 代人料上納兵役免除ヲ願出テシ者ハ

第六章中ノ第十五條第十、六條ニ揭示シタ
 ル書面ヲ以篤ト取糺シ紛レナキ者ハ聞届
 クヘシ

第三條 府縣ヨリ陸軍省ヘ差出シタル徵兵連

徵

兵

令

三

名簿ヲ照シ當府縣ニ於テ當年徵兵幾人其
 内兵種相當ノ人員及ヒ補充ノ員數ヲ算定
 シ又免役連名簿并ヒニ箇條書取紀シ中ニ
 就キテ學徒ハ學校ノ証書及ヒ科目免許書
 等差出タサセ點檢スヘシ

第四條 徵兵ニ採ルヘキ者ハ免役規則ニ適ス
 ル者ヲ除クノ外如何ナル苦情之アルトモ
 決シテ聞届クヘカラス

第三章 常備兵免役概則

第一條 身ノ丈五尺尺曲未滿ノ者

第二條 羸弱ニシテ宿病及ヒ不具等ニテ兵役

ニ堪ヘサル者

第三條 院省使廳府縣ニ奉職ノ者

但等外ニ此例ニ准ス

第四條 陸海軍ノ生徒並主船寮定雇職工ノ者

第五條 文部工部開拓其他ノ公塾ニ學ヒタル

専門生徒及ヒ洋行修業ノ者并ヒニ醫術馬

醫術ヲ學フ者教導職試補ノ者

但教官ノ証書并ヒニ何等科目ノ免許

書アル者科目ノ等未定

收

古

律令

第六條 一家ノ主人タル者

第七條 嗣子并ヒニ承祖ノ孫

但養子約束ノ子ニテ未實家ニ在ル者ハ此例ニ非ス

第八條 獨子獨孫

第九條 罪科アル者

但除族并ヒニ懲役實決一ケ年以上ノ刑ヲ蒙リタル者

第十條 父兄存在スレ共病氣若クハ事故アリ

テ父兄ニ代ハリ家ヲ治ムル者

第十一條 常備兵在役中ノ者ノ兄弟

第四章 徵兵検査

第一條 徵兵検査定日ハ前以陸軍省ヨリ各府

縣へ布達シ區括リ日割リヲ以一日幾人ト

定メ區長或ハ戸長ノ内順序ニ召連ト出ツ

ヘシ

第二條 徵兵使巡行ノ時節ニ至レハ府縣廳ヨ

リ各區ニ左式ノ罪紙ヲ渡シ本年徵兵タル

者ニ一枚宛渡シ當人ヲシテ朱書ニ示シタ

徵兵令 五

ル如ク姓名産國住居親ノ名或ハ兄叔伯總
 ヘテ戸主タル者ノ名本年月日誕生年月
 日其他罪紙題号ノ下ニ父母ノ存亡ハ勿論
 同居ノ祖父母兄弟妻子及ヒ氏神宗門等書
 載セレバ人別表ト稱ヘ檢査ノ時各個持參
 シ軍醫ニ渡スヘシ
 區々ニ渡シタル罪紙ノ残りハ徵兵事務
 竣ハルノ後府縣廳ヘ返納スヘシ

人別表

0445

何府縣何族或職業

何郡所産 何府縣何族或職業	年号月日 誕生年月日	職族業 名 歳 數	父母 祖母 兄弟 姊妹 子妻	氏		何 某
				神 宗 門		
但産國ト現今ノ貫属府縣ト異ル者ハ 表首何郡所産ト書スルノ上ニ其産國						

親名何里或兄叔伯名弟甥又尼众

曲尺七寸

ノ府縣ヲ加ヘ若又寄留スル所ニ於テ
 服役スル者ハ何郡所住ト書スルノ替
 リニ其寄留スル府縣及ヒ何郡所寄留
 ト書スヘシ

第三條 徵兵ノ体質ヲ検査スル時ハ徵兵副使
 議官各一名列坐ス検査ノ件々ハ總ハテ軍
 醫ノ專任タルニシ

第四條 徵兵検査ノ席ニ出ツル時ハ各個人別
 表ヲ所持シ醫官ニ渡ス醫官ハ書記ヲ掌ル
 者ニ渡シ姓名ヲ検査簿ニ留シ其ノ身体骨

格検査ノ件々ヲ記セシム

第五條 検査呼出シノ時ニ病氣ニテ出席成リ

難キ者ハ時トシテハ其家ニ就キ診断ノ上

一時或ハ固着等ノ病質ヲ糺シ一時病氣ノ

者ハ翌年ノ徴兵ニ廻シ固着ノ者ハ免役規

則宿病ノ者同断タルヘシ

第六條 検査呼出シノ時ニ父母ノ喪ニ罹リ未

三週間ヲ過キサル者或ハ父母ノ重病及ヒ

一家ノ安危ニ係リ一時止ムヲ得サル事故

出来ノ者ハ夫々詳細書及ヒ戸長ノ証印ヲ

後

兵

七

符
身
ノ
分

以願出ル者ハ翌年ノ徵兵ニ廻スヘシ

但翌年ニ廻スヘキ徵兵ハ府縣毎ニ別簿ニ認メ徵兵署ノ捺印ヲ押シ府縣廳へ留置キ當冬ノ徵兵連名簿ト共ニ陸軍省へ差出スヘシ

第七條 徵兵署ニ隔タリタル區邑ハ副使軍醫

副以下ノ醫官及ヒ議官一行トナリ組ヲ分

チ巡廻セシメ相應ノ場所ニ於テ假リニ檢

査場ヲ設ク其式本署ニ異ルヲナシ

第五章 抽籤并ヒニ讀筭試驗

第一條

身体検査終リタル後検査簿ヲ案ニ兵
役ニ適スヘキ者ヲ点檢シ府縣毎ニ常備抽
籤召集ノ為其定日及ニ場所共前以布達ス

第二條

抽籤ノ場所ハ府縣廳所在ノ地或ハ管
内便宜ノ地ヲ以ス

第三條

抽籤ヲ五種ニ分チ其身材ニ從ヒ歩騎
砲工輜ノ籤ヲ抽カシム

第四條

本年常備ノ缺員ヲ補フ為補充兵トシ
九十日ヲ期トシ常備一ケ年ノ徵員ニ分ノ

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

兵

第五條 抽籤ノ法ハ籤丁ヲ調ヘ左式ノ如ク籤
 札ニ其員數丈ノ番号ヲ記シ籤箱ニ納メ籤
 簿方ノ側ニ置キ區分セテ或ハ部分セシメテ
 混雜セリル様一人宛之ヲ抽カシメ籤簿方
 ハ始終籤簿ニ對シ抽籤ノ正不正ヲ監シ抽
 キ擧クレハ其番号ヲ自高聲ニ唱ヘシメ籤
 札ヲ受取り籤簿ニ姓名番号ヲ記シ復之ヲ
 當人ニ返ス

假令ハ籤丁五百人ナラキハ第一番ヨリ

第六條

抽籤當日病氣ノ者ハ父兄親族又ハ戸

何番

歩(騎)砲(工)輜

五百番迄ノ札ヲ納レ之ヲ抽カシム本年
常備定員二百人補充百人ナルキハ二百
番迄ノ籤ヲ抽キレ者ヲ常備トナシ二百
一番ヨリ三百番迄ノ籤ヲ抽キレ者ヲ補
充トシ其餘ヲ以落籤トス

籤札ハ厚紙縦横三ツ或ハ
四ツ切ニシテ四ツ折ニテ
シ中分ヲ拈ル

數

年

卷

五

長ヲ以代人トス

第七條 抽籤以前ニ常備幾人補充幾人及ヒ籤

丁ノ総員幾人ト白紙ニ大書ヒ籤丁ヲシテ

之ヲ知ラシムヘシ

第八條 抽籤終リ常備及ヒ補充ニ當リタル者

ハ書翰往復算術等出来得ルヤ否ヤヲ試ム

ヘシ

第九條 書翰并ヒニ算術ノ試験ハ筆生ノ内算

術ヲ心得居ル者ヲ撰任シ試験場ヲ設ケ其

仕法ハ二三行ノ翰牘ヲ讀ミ易キ様三四枚

0452

認ノ英ヒニ十露盤等備ヘ置キ一人完讀文
 算術ノ内出来得ルヤ否ヤヲ問ヒ出来得ル
 者ニハ讀文ハ右翰牘ヲ讀マシメ無滞讀ミ
 得ル者ヲ上等トシ二字以上誤ル者ヲ下等
 トス算術ハ除法以下誤リナキ者ヲ上等ト
 ナシ誤リアル者ヲ下等トナス
 第十條 試験全ク終ハルノ後籤簿ヲ照シ人別
 表ヲ引合ヒ姓名住居其他共左式ノ如ク厚
 紙長サ五寸幅三寸ノ割符ニ書載ヒ籤簿ニ
 引合ヒ割印ヲナシ番号並ヒニ服役年期ヲ

0454

割印年

月 号

陸軍

何府縣何郡所住居何族或職業

兵種
番號

親名何男或兄叔伯名弟甥又厄人

何 某

書加へ籤簿順ニ呼出タレ籤札ヲ出タサレ
ノ相違ナキ者ハ籤札ト右番号割符ト引
替へ相渡スヘシ

番号割符

陸軍令

二〇三六

日

省

右何鎮臺常備軍三ヶ年服役申付候事

補充籤ヲ抽キニ者ハ 右何鎮臺補充

兵九十日服役申付候事

第一後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第一

後備軍ニケ年服役申付候事

第二後備軍ニ入ル者ハ 右何鎮臺第二

後備軍ニケ年服役申付候事

第十一條 補充役ヲ命セラレタル者ハ其家ニ

後

六

三

舊 兵 令

歸居レ常備缺員ノ節ハ其鎮臺ヨリ籤順ニ
布達レ何時ニテモ入營ナサシムヘキニ付
キ服役中ハ其管内ヲ出ツルヲ禁ス

但本年常備兵入營期限初日ヨリ算レ
九十日目ノ其日迄ニ常備入營ヲ命セ
ラレサレ者ハ即除役ト心得ヘシ

第十二條 補充ヨリ常備軍ニ命セラレタル者
ハ本人入營ノ月日ニ拘ラス總ヘテ自同
年ノ常備兵入營期限初日ヨリ三ヶ年ノ期
ヲ保ツヘシ

第十三條 常備軍満期ノ者ハ後備軍ノ番号割

符ヲ渡シ而常備役ノ番号割符ニ満期ノ檢

印ヲ押スヘシ

第十四條 第一後備軍満期ノ者ハ第二後備軍

ノ番號割符ヲ渡シ而第一後備役ノ番號割

符ニ満期ノ檢印ヲ押スヘシ

第十五條 第二後備軍ノ番号割符ヲ受ケ服役

ニケ年ノ後ハ第二後備軍ノ籍ヲ除セラレ

シ者ト心得ヘシ

第十六條 徵兵使ハ各府縣ニ於テ徵兵事件全

徵兵

三

親覽取替
本人姓名

何 某

同

同

同

ク竣ハルノ後徴スル所ノ兵員ヲ精算シ兵種ヲ分テ左式ノ算紙ニ各個持參致シタル徴兵人別表ヲ寫シ取リ身体検査表讀文算術試験簿及ヒ籤番号ヨリ状貌其他題号ノ下ニ悉書載セ兵卒明細連名籍ヲ認メ常備補充ヲ區別シ一府縣ニ纏メ各二部ヲ作り陸軍省及ヒ所管ノ鎮臺ヘ差出タスヘシ

但鎮臺ヘ渡ス兵卒明細連名籍ハ籤簿ヲ添ヘ四月十五日迄ニ差廻スヘシ

二百七十九

0459

備考	意 補充	變算術 常備	履休質	子	妻	姉妹	兄弟	祖母	祖父	母	父	宗 門	氏 神	職業 本人	族 親	誕生	住所	産 国

改

氏

至

別 徵	痘 天然(種)	眉 濃淡疎密長短細大 等字	髮 濃淡疎密本禿卷縮 等字	顙 長短尖圓張背曲等 字	口 大小上下唇厚薄露 齒等字	鼻 隆卑大小交感背曲鼻梁 高低鼻翼大小鼻孔開 大小等字	眼 無細圓等字	額 大小銳鈍凹陷凸露等 字	額 長短廣狹扁凸等 字	顏 長短方圓大小扁平 廣闊等字	骨 相	兵卒明細連名籍
												陸軍省

第十七條 徵兵出席ノ名簿ヨリ代人料上納名

簿免役名簿其他種々ノ願書及ヒ届書區長

戸長ノ取調ハ証書惣ハテ徵兵ニ關スル書

類ハ一切兵卒明細連名籍ト共ニ陸軍省ハ

差出タスヘシ

第六章 徵兵雜則并ヒニ扱方

第一條 常備籤ヲ抽キタル徵兵ハ四月廿日ヨ

リ五月一日迄ニ入營致スヘシ其營所迄ハ

府縣毎ニ區括リニシテ區長或ハ戸長ノ内

召連レ出ツヘシ最營所ニテハ籤ノ番号ヲ

支 五

目的トシテ入營ナサレムヘキニ付、ト齟齬
 ナキ様注意スヘシ尤入營迄ノ入費ハ総
 テ徵兵入費概則ニ照準シ賜ハルヘシ若事
 故アリ入營遅緩ニ及フハ其事故ヲ生ス
 ル所ヨリ辨スヘシ

但書中區括リト稱スル者ハ區ノ大小
 人口ノ疎密ニ由リ二區或ハ三四區括
 リ總ヘテ府縣ノ便利ニ從フ

第二條 籤ノ番号ハ服役中ノ目的タルヘキヲ
 以各個丁寧ニ所持致スヘシ

第三條 病氣或ハ事故出来期限通り入營相成

リ難キ者ハ其段詳細ニ書認メ區戸長及ヒ
其病氣事故ニ係リタル者ノ証印ヲ取り其
筋ヲ經テ至急ニ其鎮臺ヘ届出ツヘシ

第四條 常備軍服役在營中其身元轉居スルハ

ハ其父兄或ハ親族ノ者ヨリ直ニ本人ニ通
報シ本人ヨリ自己所屬ノ下士ヘ届出ツヘシ
シ歸休中ノ者ハ第九條第一後備服役中轉
居ノ届同斷タルヘシ最自己所屬ノ下士ヘ
モ同様届出ツヘシ

文

第

九

五

第五條 常備軍服役中歸休郷里ニ在リテ死没スル者ハ其戸主ヨリ其筋ヲ經テ鎮臺へ届出ツヘシ

第六條 常備軍在營中病氣ノ者ハ軍醫ノ診断ヲ以病院ニ入レ治療ビシメ其上ニテ兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵籍ヲ除スヘシ最歸縣迄ノ旅費ハ定則ニ照準シ賜ハルヘシ

第七條 父母ノ重病或ハ非常ノ事故出来一時止ムヲ得スレテ歸省ヲ願フ者ハ其親或ハ親族ノ者ヨリ府縣廳ノ真書証印ヲ以所管

ノ鎮臺へ願出ツルニ於テハ詮議ヲ遂ケ許
可スヘシ最滞郷日數ハ往來ヲ除クノ外二
週間ヨリ長カルヘカラス

但旅費ハ往來共自辨タルヘシ

第八條 第一後備軍ノ復習期限ハ年々十日以

前ニ其鎮臺ヨリ布達シ旅費等ハ徵兵入費

概則ニ照準シ里程ニ應シ相渡スヘシ若病

氣或ハ事故出来ノ者ハ第三條ノ通り届出

ツヘシ

第九條 後備軍服役中同府縣内へ轉居スルハ

後

長

手

0466

符身令二

ハ左ノ第一式ノ通り戸長ノ姓名奥書証印
ヲ取り其筋ヲ經テ鎮臺へ届出ツヘシ若他
府縣へ轉居スルキハ同軍管ナレハ左ノ第
二式ノ通り他軍管ナレハ同式中兵籍御送
ル方ノ字ヲ第何軍管第何後備軍へ御編入
替ト認メ前手續キヲ以願ヒ出ツヘシ

第一式

私儀此度何郡所へ轉居仕候間此段
御届申上候以上

年号月日

年号第^三後
備軍第何番

何府縣何郡所住何族或職業

何某印

二百九十一

0467

何鎮臺

御中

前書之通相違無御坐候以上

何郡所長

何某印

第二式

私儀此度何府縣何郡所へ轉居住候
間兵籍御送り方相成度此段奉願候
以上

年号月日

年号第一三
後備單奉付者

何某印

何府縣何郡所住何姓或職業

何鎮臺

散

長

三

御中

御中

前書之通相違無御坐候以上

年号月日

何府縣何郡所長

何某印

第十條 後備軍服役中ノ者若院省使廳府縣ヨ

リ登庸セント欲スルハ其官廳ヨリ其鎮

臺ヘ掛合フヘシ

第十一條 後備軍服役中死没ハ其尸主ヨリ其

筋ヲ經テ鎮臺ヘ届出ツヘシ若國禁ヲ犯シ

或ハ脱走等ノ者アルハ其府縣廳ヨリ箇

條書ヲ以届出ツヘシ

改

手八

第十二條

全國ノ男兒齡十七歳ヨリ國民軍籍
 入シ或ハ守衛トナレ或ハ征軍ナサシムハ
 キヲ以十六歳ノ冬十一月十日マテニ其戸
 主ヨリ戸長ハ届出ツヘシ最一家ノ主人々
 ヲ者ハ自分ヨリ届出ツヘシ戸長之ヲ取調
 ハ所轄ノ區ハ差出タシ區長点檢ノ上區括
 リニシテ府縣廳ハ差出タシ翌年ノ成國民軍名簿
 載セ之ヲ備ハ置キ而國民軍人員表ヲ製
 シ陸軍省ハ差出タスヘシ

第十三條 男兒二十歳ニ至レハ兵役ニ就クハ
 キヲ以毎年十二月廿五日迄ニ府縣廳ニ於
 テ十九歳ノ者ヲ調ヘ徵兵連名簿ニ載スル
 トトス是故ニ十九歳ノ者ハ其年ノ十一月
 十日迄ニ必戸長ヘ届出ツヘシ戸長之ヲ取
 纏ノ其内免役ニ適スル者アレハ篤ト取調
 ヘ夫々箇條書相添ヘ區長ヘ差出タスヘシ
 區長ハ十一月廿五日迄ニ區括ソニシテ証印
 レ府縣廳ヘ差出タスヘシ府縣廳之ヲ点檢
 レ徵兵連名簿ニ載セ十二月廿五日迄ニ陸

軍省へ差出タスへ最免役ニ適スル者ハ
 區々ヨリ差出タル免役箇條書ヲ取
 シ免役連名簿ヲ作り各個箇條ヲ詳細ニ書
 載セ徵兵連名簿ト共ニ差出タスへ其中
 學徒ハ夫々其修業スル處ノ學校へ掛合ヒ
 教官ノ証書及ヒ科目免許書等取寄テ置キ
 徵兵使巡行ノ日差出タスへ若右証書科
 目書等之ナキ者ハ一月中ニ呼返シ置クハ
 シ最洋行修業ノ者ハ此例ニ非ス
 第十四條 寄留スル者ノ子弟及ヒ厄奴タル者

徵兵令

三十九

ハ現今寄留スル府縣ノ兵籍ニ入ルヘシ

但本籍ニ歸リ兵役ヲ勤メント欲スル

者ハ十九歳十一月十日迄ニ其段ヲ戸

長ニ届ケ戸長ヨリノ送り書ヲ以テ本

籍ニ歸ルヘシ

第十五條 本年徵兵ニ當リ自己ノ便宜ニ由リ

代人料金二百七十圓上納願出ツル者ハ常

備後備兩軍共之ヲ免ス

免後上納金ハ其府縣廳ニ纏メ五月中

ニ陸軍省ニ相納ムヘシ

教

六

三十一

第十六條 免役ヲ願出ツル者ハ其親或ハ親族

ノ者^當リ^テ徵兵使巡行徵兵検査以前左ノ願

書ヲ認^入ル^ル戸長ノ奥書証印ヲ以區長ヘ差出

タ^レ區長ヨリハ徵兵署ニ差出タス^ヘシ

其親或ハ親族ノ者願書并^ヒニ

戸長奥書案文

私^{何男}何某儀當年二十歳ニ相成服役

可仕^{親族}答之^ル処家事差支^リ有之ニ付代

人料金貳百七十圓上納仕候間何卒

常備後備兩軍共御差除被下度奉願

0474

省兵令

上候以上

年号月日

何府縣何郡所住何様職業

何某印

陸軍徵兵署

御中

前書願出之通相違無御坐候以上

同日

何郡所戸長

何某印

區長進達書案文

當區内免役願出候者幾名戸長ヨリ

真書証印ヲ以テ別冊之通リ差出候

間精細吟味仕候處毛頭不都合ノ筋

二百九十五

0475

無御坐候間及進達候也

年号月日

何郡所奉何大區長

何某印

陸軍徴兵署

御中

第十七條 徴兵ニ關スル事件ニ付キ年齢及ヒ
 父母兄弟ノ有無又ハ虛病其他詐偽スル者
 ハ官ヲ欺罔スルノ罪若又戸長或ハ區長取
 調ヘ証印ノ上ハ其証印ヲナセシ官吏ハ粗
 漏ノ罪尚又徴兵ノ欺妄ヲ隱匿スル者ハ其
 罪最重ナルヘシ右孰モ常律ヲ以其罪ヲ糾

徴

兵

三十一

0476

律
子
令

ス
可
キ
ナ
リ

明
治
八
年
十
月

二百九十六

4470